

2013年8月中部品質工学研究会 議事録

- ◆ 日時:2013年8月3日(土) 10:00~16:00
- ◆ 場所:ITEQ 事務所
- ◆ 参加者(敬称略):井上、伊藤、山口、池田、川畑、牧野、大見(記) 杉浦(欠席)
- ◆ 内容

1. 機能の検討:自動車などに利用されるダンパー機構について機能検証

これらダンパーは単純な比例の動きではなく、動作速度やダンパー位置により、複数の別機構で動作する場合も多い。このような時は、個別の機構についての基本的機能(ダンパーの速度とオリフィス部のオイルの速度 など)を作り込んだ後、全体の検証(併せ込み)を実施すればよいのでは?との意見があった。

2. 解析研究:近L12直交表 水準の平均値計算

2013年の研究発表大会(論文17)で発表された近L12直交表の解析方法について議論。

メンバーが補正用の解析プログラムを作成し、主効果のみで構成される架空データを解析。

本補正を利用した場合は、再現性が高い結果が得られた。

他方、補正が無い(採用水準の単純平均)と再現性が悪くなった。

今後、他方式での計算結果との比較や具体事例を通じ、有効性を確認する。

3. 事例研究:多因子から発生した不具合の分析

説明変数:4、データ数:37の解析のため、エクセルの多変量解析で分析可能。

分析した結果からは、説明変数が不足なことが判る。(各要因における試験結果と予測値の散布図から)

また、別な分析方法として、試験結果を規格値で分け、規格値内を「1」、規格値外を「-1」として計数値で分類し、予測結果とで散布図(X軸:試験結果、Y軸:計数値)を作成した 結果でも、X軸での分類が出来ない事から、説明変数が不足していることが判る。

4. アングルトライ社M法について

- ・アングルトライ社の新ソフトのM法のパンフレットを紹介。従来より相関が取りやすいとのことだが、具体的な理論は不明。9月例会にて、実際のソフトについて紹介を実施する。

以上